



横浜市環境配慮指針の 一部改定について

令和2年9月15日

横浜市環境創造局環境影響評価課

1



本日の説明内容

- 1 趣旨
- 2 改定の方向性
 - (1) グリーンインフラ
 - (2) 地球温暖化対策
 - ①脱炭素化、②再生可能エネルギー、③低炭素電気選択
 - (3) その他
- 3 改定の進め方

2



1 趣旨

横浜市環境管理計画や横浜市地球温暖化対策実行計画等、**新たな本市環境行政の動向**を踏まえグリーンインフラや脱炭素化への取組を、推進するため横浜市環境配慮指針（以下「配慮指針」）を一部改定します。

※グリーンインフラの活用を配慮指針等に明記している自治体はありませんが、本市では各計画等を考慮し、積極的に取り組めます。

3



配慮指針とは

横浜市環境配慮指針
計画段階事業者が立案段階から環境影響について配慮すべき事項を定めたもの

⇒ **主に事業別の配慮事項を改定**

※ 配慮指針を改定するときは、あらかじめ横浜市環境影響評価審査会へ意見聴取します。
(横浜市環境影響評価条例第6条第3項)

4

配慮指針に関する経緯

平成8年9月	横浜市環境管理計画の環境配慮指針編として策定
平成16年3月	横浜市環境管理計画の環境配慮指針編を改定
平成23年6月	横浜市環境配慮指針の策定 （現条例策定に合わせて配慮指針を策定）
平成25年3月	改定（本文、資料編） 風力発電施設建設事業を市条例対象事業に追加したことに伴う改定
平成27年7月	改定（資料編） 資料4（横浜市地域環境情報の時点更新）
平成31年4月	改定（資料編） 資料1（計画段階配慮の検討手順を分かり易く）、資料4（横浜市地域環境情報の時点更新）、資料5（用語集）を改定。

⇒ 策定から約10年経過しており、新たな本市環境行政の動向を踏まえ、今般見直しを行います。

5

2 改定の方向性

6

改定の方向性

(1) 生物多様性や浸水対策等の多様な機能がある
「**グリーンインフラ**」の活用

(2) **地球温暖化対策**の強化

- ① 脱炭素化の実現
- ② 再生可能エネルギーの活用
- ③ 低炭素電気選択の促進

7

(1) グリーンインフラ 多様な機能



8

グリーンインフラ 活用イメージ・事例



引用元：横浜市環境管理計画p.79



江川せせらぎ緑道（都筑区）
（引用元：横浜市環境管理計画p.79）



今宿東公園（旭区）
（引用元：横浜市HP）



泥亀公園（金沢区）
（引用元：横浜市HP）



9

グリーンインフラ 横浜市の関係計画等①

- 横浜市中期4か年計画2018-2021
 - **花と緑**にあふれる環境先進都市（戦略2）
 - グリーンインフラが有する多様な機能の活用検討・実践
 - 未来を創る強靱な都市づくり～**災害**に強い安全で安心な都市～（戦略6）
 - 局地的な大雨等に強い都市づくり など
- 横浜市環境管理計画（2018年11月）
 - **防災・減災**の視点を入れた環境施策の推進
 - **気候変動**への適応策としてのグリーンインフラの活用 など
- 横浜みどりアップ計画2019-2023
 - 緑がもつ多様な役割と機能（**防災・減災**に資する機能、**生物多様性**を保全する機能、**ヒートアイランド**現象緩和、**雨水貯留**・**かん養**機能、**景観**形成機能）など



10

グリーンインフラ 横浜市の関係計画等②

- 横浜市下水道事業中期計画2018
 - 地震や大雨に備える**防災・減災**、良好な**水環境**の創出
 - 浸水対策の強化と地下水の涵養など良好な水循環の再生 など
- 横浜市都市農業推進プラン
 - 生産基盤の整備と支援
 - **農地**の持つ多面的機能（雨水の貯留・浸透、ヒートアイランド現象の緩和等のグリーンインフラとしての機能等）
- 横浜市地球温暖化対策実行計画
 - 将来像：**気候変動**の影響に適応しているまち
 - 中期的な重点施策：グリーンインフラを活用した取組

⇒ **本市環境行政の動向を踏まえグリーンインフラ活用を推進**



11

グリーンインフラの活用

⇒ **生物多様性や浸水対策等の多様な機能があるグリーンインフラへの取組を、全事業を対象に配慮事項として記載します。**

グリーンインフラ（定義）

自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある都市づくりを進めるための社会資本（横浜市中期計画、横浜市地球温暖化対策実行計画）

農地などの自然的環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある都市づくりを進めるための社会資本（横浜市都市農業推進プラン）

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能（生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるもの（国土形成計画）

グランモール公園（西区）

雨水を保水・浸透させると共に、植栽の成長を助け、晴天時は蒸発散効果で、ヒートアイランド対策にも寄与しています。



引用元：横浜市下水道事業中期経営計画P.29



12

(2) -① 脱炭素化の実現

- 横浜市地球温暖化対策実行計画を平成30年（2018年）に改定
- 改定計画では、「2050年までの温室効果ガス実質排出ゼロ（脱炭素化）の実現」を本市のゴールとして設定



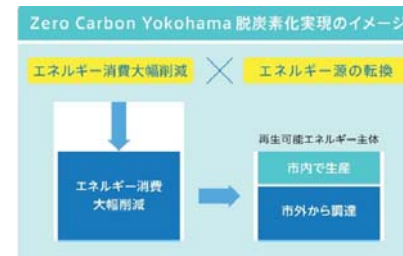
⇒配慮指針においても、本市のゴールである「脱炭素化の実現」に向けて、取組を推進していく

13

(2) -② 再生可能エネルギーの活用

- 改定計画では、脱炭素化の実現に向けて、バイオマス燃料などの再生可能エネルギーの導入拡大を掲げた

(※バイオマス燃料の例：木質チップ、使用済み食用油等)



- 令和元年度には、横浜市生活環境の保全等に関する条例の規則等を改定し、バイオマス燃料に対応した排出基準等を設定

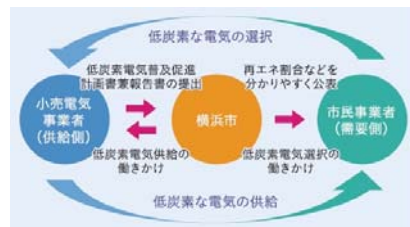
⇒配慮指針の「熱源・燃料は、電気又はガスを使用する」規定を見直し、再生可能エネルギーの活用を促進していく

横浜市地球温暖化対策実行計画パンフレットより

14

(2) -③ 低炭素電気の選択

- 2016年4月に電気の小売全面自由化が開始され、電気の使用者が自由に電力会社を選択することが可能
- 脱炭素化に向けては、CO2の排出量が少ない低炭素な電気（低炭素電気）を積極的に選択することが重要



横浜市低炭素電気普及促進計画書制度

- 2019年度に横浜市低炭素電気普及促進計画書制度を創設し、市内に電気を供給している小売電気事業者の排出係数などの情報を横浜市が公表

⇒配慮指針においても、事業者に低炭素電気の選択を促す

15

(3) その他（文言整理等）

- 項目上の整理、見直し
- 誤解を与える可能性がある表現の修正

16